

## 漆の椅子の制作

クラフト分野 井波ゼミ A2201729 横山美沙樹

### 研究の背景

明治時代の文明開化以降、日本の居住空間には西洋の生活スタイルが取り入れられ、日本の文化と混合しながら、私たちの生活に定着していった。しかしその過程において漆家具は減少し、現代の漆工品は漆器やアクセサリー等の日用品が主流である。また別の問題として、椅子をはじめとする家具は人生の節目や壊れた際に新しいものを購入し、古いものは処分することがほとんどである。

そこで現代の生活に欠かせない椅子をベースとして、機能性と耐久性を備え、一生使い続けられる漆の椅子の制作を行おうと考えた。

### 研究の目的

本研究では、漆の持つ耐久性と経年変化による色艶の変化を生かし、「人と共に成長する椅子」をテーマとして一生使える椅子を制作する。制作を通じて木材や漆に対する知識や技術を深め、現代の住居空間と調和する椅子を提案する。デザイン面、さらには現代で行われる行為・活動を考慮した椅子を提案する。

### 計画(研究のプロセス)

#### 1. デザイン決定

漆家具・椅子の調査

アイデアスケッチ

椅子のコンセプト

「小休憩」をコンセプトとし、読書や音楽を聴くための椅子を製作する。休息用とデスク用の中間の椅子軽くもたれることができ、立ち上がりやすい椅子を製作する。漆の椅子を制作するにあたり、見た目や漆の塗布の観点から表面に釘やねじ、補強用金具が見えないようにするデザインを考える必要がある。金属部品の使用を最小限にし、木材だけの接合で椅子としての十分な強度が保持できる組み方を考える。

#### 2. 試作

モックアップ制作

1/1 図面の製図

1/2 モデル制作(試作) 切り出し・加工・組みの工程確認 図面確認

1/1 図面修正

#### 3. 本制作

##### ● 木材加工 ブナ・ビーチ材を使用

パーツ切り出し

加工 削りだし、ホゾ・ホゾ穴加工、研磨

組み立て ホゾ組、接着剤、ネジ止め



図 1 ホゾ穴加工

● 漆工

固め

刻苧詰 隙間へこみの補強

すり錆

錆研ぎ 表面を軽く研いで整える

木地呂漆塗

研ぎ

木地呂漆塗

胴擦り

仕上げ



図 2 組み立て 接着剤をつけ圧着



図 3 刻苧詰 へこみや隙間を埋める



図 4 摺錆 錆を塗った後、すぐに布でふき取る

成果物または考察

漆椅子 550×460×820

日常生活で使いやすいシンプルなデザインを目指した。今回一生使える丈夫な椅子を制作するために、堅いブナ材を用いた。そのため椅子が重くなり動かせないということが無いように、各パーツの軽量化と強度の両立、そしてデザインのバランスをとることが難しかった。また椅子が重く圧迫感を感じやすいこともあり、背面やひじ掛けのパーツを細く、空間を広くとることで視覚的にも軽くなるように努めた。

